

Ⅱ 調査研究の概要

新しい**自分発見**教育センターで…
 ～学びの**一歩**，**還元**の二歩～



1

平成27年度調査研究発表会
調査研究の概要

鹿児島県総合教育センター

2

全体研究主題について

**生きる力を豊かに育てる
 学校教育の創造**

3



調査研究の全体像について

研究主題

研究の視点

各課の研究

- 教科教育研修課 (H27・H28)
- 教育相談課 (H27・H28)
- 情報教育研修課 (H26・H27)
- 特別支援教育研修課 (H26・H27)
- 教職研修課 (H26・H27)

プロジェクト研究

- 「みんなで取り組み，学び合う授業研究」の進め方Ⅱ (H26～H28)

5

教科教育研修課の研究 (平成27・28年度)

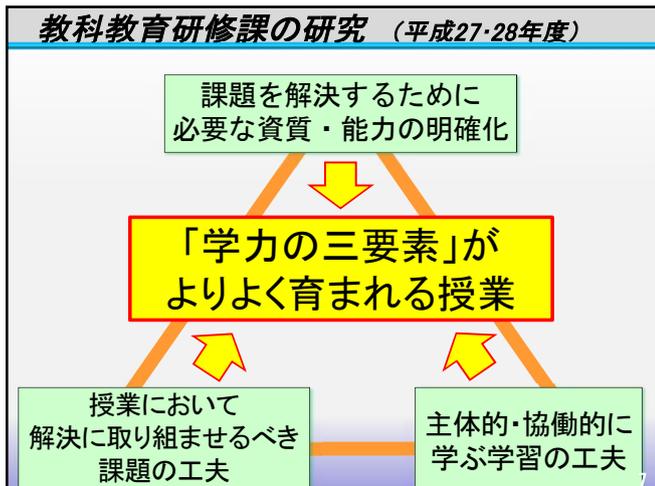
研究主題

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
 —主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通して—

研究のねらい

課題を解決するために必要な資質・能力を授業を通して育成するために、児童生徒が、主体的・協働的に学ぶ学習の在り方を見直し、実践研究を推進する。

6



教育相談課の研究 (平成27・28年度)

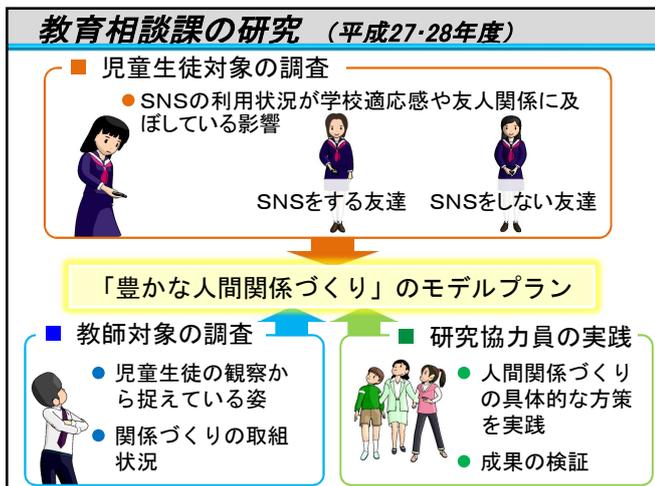
研究主題

児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究
— SNSの利用による友人関係への影響に着目して—

研究のねらい

SNSを利用する児童生徒が増加している傾向の中で、児童生徒の友人関係における実態を「学校楽しい」と等の調査から多面的に考察し、人間関係を豊かにする指導・支援の在り方を明らかにする。

8



研究発表 I 情報教育研修課の研究 (平成26・27年度)

研究主題

情報活用能力の育成に関する研究 II
— 言語活動の充実に資する ICT 活用の在り方—

研究のねらい

児童生徒の情報活用能力を育成する学習活動の「まとめる」、「いかす」場面を中心に、言語活動の充実を見据えた児童生徒の ICT 活用により、生きる力に資する児童生徒の情報活用能力を育成する方策等について明らかにする。

10

研究発表 I 情報教育研修課の研究 (平成26・27年度)

研究主題

情報活用能力の育成に関する研究 II
— 言語活動の充実に資する ICT 活用の在り方—

言語活動にICTを!

11

研究発表 II 特別支援教育研修課の研究 (平成26・27年度)

研究主題

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究 II
— 知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫—

研究のねらい

実態調査を基に、指導目標の設定や指導内容の選択・組織の具体的な方法や内容例、教師の指導の評価を提案することで、全体指導計画や個別の指導計画、授業の改善を図り、一貫性・系統性のある指導の充実を目指す。

12

研究発表Ⅱ 特別支援教育研修課の研究(平成26・27年度)

研究主題

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ
 一知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫

指導内容の明確化を!

調査報告 教職研修課の研究(平成26・27年度)

研究主題

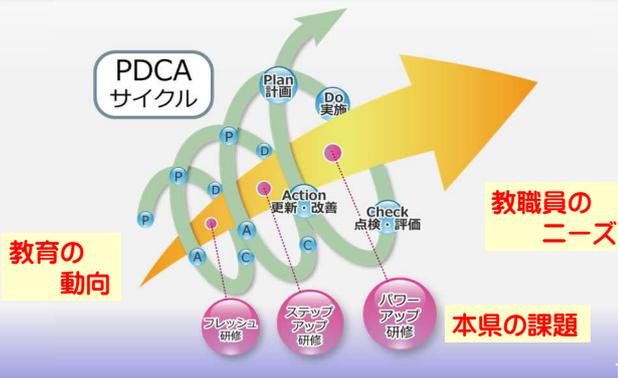
教職員のニーズを踏まえた効果的・効率的な研修の構築に関する研究Ⅲ

研究のねらい

教職員の資質向上を目指して、教育的ニーズや教育の動向等に関する情報を踏まえ、教職員研修の充実を図る。

調査報告 教職研修課の研究(平成26・27年度)

学び続ける教師(指導力の向上・意識の高揚)



プロジェクト研究 (平成26～28年度)

研究主題

「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ
 ー授業力向上を図るワークショップ型研修を通してー

研究のねらい

これまでの研究成果を基に、授業研究の方法面に加え、新たに学校のニーズに応じた研究の内容面からのサポートを充実させる。また、授業研究の工夫・改善を行うとともに、成果の普及を図ることによって、教師の授業力向上を目指す。

プロジェクト研究 (平成26～28年度)

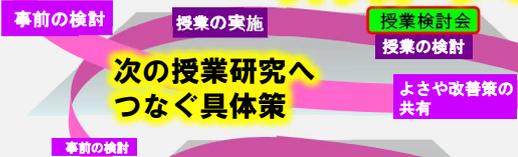
授業づくりから授業検討及び改善策等を授業実践に生かす一連の過程



授業研究の活性化

日常の授業改善に生かす授業研究の定着

ファシリテーターの育成



授業研究サポート事業Ⅱ **授業づくりの視点**

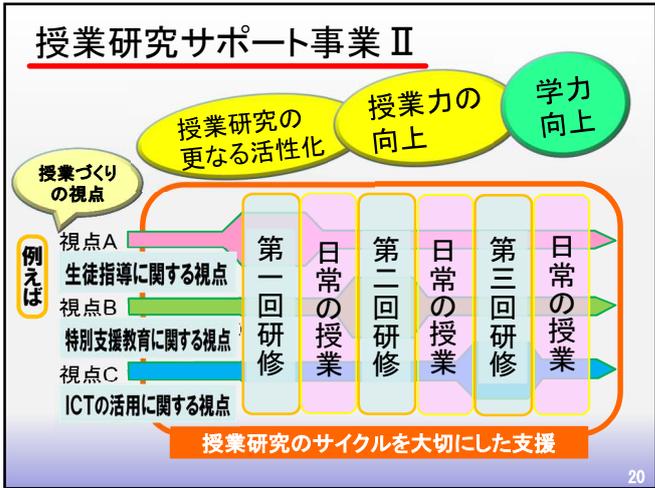
視点A **生徒指導に関する視点**
児童生徒の自己指導能力を育成するための授業づくりの在り方

視点B **特別支援教育に関する視点**
児童生徒の多様性に応え、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業の工夫

視点C **ICTの活用に関する視点**
授業の目的を達成し、児童生徒の情報活用能力を育成するためのICT活用

視点D **「判断基準」に基づく授業づくりに関する視点**
思考力・判断力・表現力に関わる目標の達成状況を的確に見取る「判断基準」を設定した授業構想

視点E **その他、学校のニーズに応じた視点**



実践校の取組(授業研究のつながり)
南九州市立霜出小学校(視点B,C,D)

授業づくりの三つの視点を毎回の授業研究で取り入れ、継続的な授業改善を目指している。

ファシリテーターと授業者が各グループを巡回し、必要に応じて質問に答えたり話合いの流れを修正したりしている。

実践校の取組(授業研究のつながり)
垂水市立垂水小学校(視点A,B,D)

前回の授業づくりの視点B「特別支援教育に関する視点」で出された改善策を、板書の改善に生かしている。

各班のファシリテーターは各回で交代し、教職員全員のファシリテーターとしての資質向上を図っている。

実践校の取組(活発な授業検討会)
霧島市立国分南中学校(視点A,B,C)

ICTを効果的に活用し、職員全体で授業検討会の流れや内容の共通理解の下で進めている。

改善策の共有化の場面では、授業づくりの視点に基づいた具体策をスクリーンに提示し、職員全体で共有できるようにしている。

実践校の取組(活発な授業検討会)
鹿児島県立吹上高等学校(視点A,B)

アイスブレイクを取り入れ、和やかで活発な授業検討会ができるように場のデザインを工夫している。

生徒指導の視点を基に、教科等の枠を越えて様々な意見を発表し、今後の指導に生かすように共通理解している。

実践校の取組(ファシリテーターの工夫)

鹿児島県立南薩養護学校A,B,C

二人体制の全体ファシリテーターにより、役割を分担して職員全体の意見の合意形成を図る。



改善策を大きく見える化し、学部を越えて、明日からの授業で実践できる具体策を確認している。

実践校の取組(ファシリテーターの工夫)

いちき串木野市立串木野西中学校(視点A,C,E)

授業学級に個別に分けた付箋を置き、授業の途中から参観しても視点に沿った意見を記入できるようにする。



授業づくりの視点に基づいた改善策を共有する際に、教科等の枠を越えてすぐにできそうなこと(実現性)を問う声掛けをしている。

ワークショップ型の授業検討会について

- 視点に沿って記入しやすい。
- 時間が決められており、一人一人が意見を出しやすい。

- 書くことで考えがまとまる。
- 気付いたことを、その場で書くことができる。

92%

自由に出しやすかった
ある程度出しやすかった

改善策の共有化の場面について

学校の共通実践事項を共有できた 個人の実践事項をもつことができた 実践事項を出せなかった

第1回アンケート

改善策を共有して、個人や学校共通の実践事項をもつことができた。

第2回アンケート

- 時間不足で全体の改善策を共有できなかった。
- 授業参観できず、意見を出せなかった。

授業づくりの視点の有効性について

授業参観や授業検討会の視点が明確になった ある程度明確になった あまり明確にならなかった

第1回アンケート

授業参観や授業検討会の視点が明確になった。

第2回アンケート

- 指導の重点がはっきりし、児童生徒の変容が捉えやすかった。
- 指示や発問のポイントを絞ることができた。

